

古フランス語における文頭の補語と語順

Les compléments en tête de phrase et l'ordre des mots
en ancien français

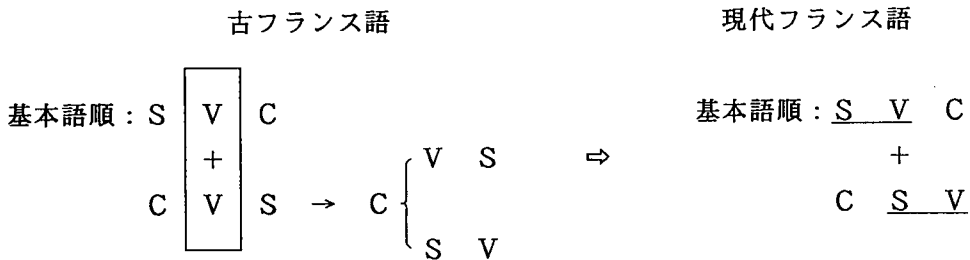
今田 良信

Yoshinobu IMADA

0. はじめに

本稿は、筆者がこれまで考察を行ってきた古フランス語の語順に関する一連の論考を踏まえ、文頭に何らかの補語(C)が立った場合、CVS語順を保持しようとする働きは、状況補語よりも直接・間接目的補語の方が強く、また状況補語同士なら節よりも句・語の方が強いことを、13世紀散文を資料として実証的に示すのが目的である。

〔図1〕



〔図1〕にあるように、古フランス語における文(phrase)の主要構成素である主語(S)、動詞(V)、補語の基本語順はSVCであったと言われている。しかし、実際にテキストを見てみると、古フランス語の独立した平叙文(phrase énonciative indépendante)ではCVSという主語以外の構成素が文頭に来る語順もかなり好んで用いられており、これもよく知られている。そして、このSVCとCVSという語順は、いずれも文の第2位に動詞があることから、動詞第2位文と呼ばれ、一般にゲルマン語の影響による古フランス語の語順の大きな特徴とされている。一方、現代フランス語でも、基本語順はやはりSVCであるが、Cが文頭に来る場合には古フランス語と異なり、CSV語順が原則である。これは、古フランス語から現代フランス語への変化として捉えれば、動詞第2位の語順からSVを固定した語順への動きとも考えられ、文頭に主語以外の構成素が立った場合のみを問題にするなら、CVS語順からCSV語順への変化の問題に還元できるとも言えよう。そして、この変化の起動の時期が13世紀にありそうなことは、Wartburg(1971)の指摘¹⁾などからも見て取れる。

1. これまでの研究経過と本稿との関係

本稿は、古フランス語の語順について筆者が扱おうと考えている問題全体の一部を成すものである。

1. 1. 拙論(1993)

筆者は、拙論(1993)²⁾において、補語を直接目的補語 (complément d'objet direct), 間接目的補語 (complément d'objet indirect), 状況補語 (complément circonstanciel) に分け、更に語 (mot), 句 (locution), 節 (proposition)に分けた上で、それが文頭に来た場合、CVS語順を取るもの、CSV語順を取るもの、その両語順の間でゆれているものがあることを従来の研究を含めて指摘し、その体系的記述に不十分な点のあることを述べた。

1. 2. 拙論(1995)

更に、拙論(1995)³⁾においては、状況補語の節である従属節に的を絞り、それが文頭にある場合、後続の主節の語順がどうなっているか調査・分析を行った。その結果、後続の主節の語順は、従属節の種類によって、また同一種類の従属節であっても、VSとなるものとSVとなるものが存在することを指摘した。この点はG. MoignetやPh. Ménardによる古フランス語の詳細な文法書⁴⁾にも指摘は見られなかった。そこで、文頭に立つ従属節にはどのようなものがあり、そのうちどの従属節が、後続の主節でVSとなり、SVとなるのか、また同一種類でVSとなったりSVとなったりする語順のゆれている従属節はどれか、そしてこの3つのグループの違いが生じたのは何故か、などの問題を実証的に検討した。以下、その経過を少し追ってみる。

1. 2. 1. 資料

言うまでもなく、語順を言語学的に扱うために、いずれの拙論でも使用したのは散文資料だけである。⁵⁾ 拙論(1995)では、13世紀の散文資料3点を網羅的に調べたが、本稿でも条件を揃えるため同じ資料を使用した。テキストと略号は次の通りである。

M.A.: *La Mort le roi Artu*, Roman du X III^e siècle, éd. J. Frappier, TLF, 1964.

Q.G.: *La Queste del saint Graal*, Roman du X III^e siècle, éd. A. Pauphilet, CFMA, 1980.

S.E.: *La vie de Saint Eustace*, Version en prose française du X III^e siècle, éd. J. Murray, CFMA, 1929.

1. 2. 2. 調査と分析

〔表2〕は、文頭に見られる従属節を後続の主節語順により3つのグループに分類したものである。〔表2〕の下にある数値⁶⁾を見ると、CVS語順のグループとCSV語順のグループがその両語順の間でゆれを持つグループを挟んでほぼ拮抗しているのが分かる。この時期はまだ動詞第2位が原則であったはずであるが、状況補語の節に関しては、CSV語順のものが既にかなり多くなって来ていると言えよう。各グループの用例については

〔表2〕のあとに示してある。なお、この後も各表のあとに該当する用例を示すことにしたい。

〔表2〕 状況補語（従属節）

～ PROP : それぞれの状況補語節（従属節）全体を示す

CVS語順	CVS～CSV語順	CSV語順
autant come PROP de ce que PROP des lors que PROP de tant come PROP entretant come PROP la ou PROP par ce que PROP tandis que PROP (tout) ensi come PROP	a ce que PROP ainz/ançois que PROP après ce que PROP en ce que PROP endementiers/endementres que PROP maintenant que PROP por ce que PROP puis que PROP se PROP si tost come PROP tant come PROP	comment que PROP des que PROP quant PROP que que PROP que qui PROP qui PROP qui que PROP
計 9(33%)	計 11(41%)	計 7(26%)
総計 27(100%)		

CVS語順 /例 Bt tout ensi come il li promist, li fist il, (M.A.53/17-18)

CVS～CSV語順 /例 Ançois qu'il fu bien ajourné, commanda li rois que on destendist ses tres et ses paveillons, (M.A. 159/26-28)

例 e ançois qu'il a moi repairast, uns lions sailli del bois ... (S.E.28/28-29)

CSV語順 /例 Bt quant il fu bien ajorné, li rois se leva de son lit. (S.G.21/15-16)

さて、この拙論で問題にしたのは次の2点である。

- i) CVS語順、語順がゆれているもの、CSV語順という従属節の3つのグループの違いはどのように生まれたのか。
- ii) 語順がゆれているグループにおけるCVS語順の場合とCSV語順の場合の違いはどのような要因によるのか。

このうちii)については、紙幅の都合でここでは省略するが、詳しくは拙論をご覧いただきたい。⁷⁾そこで、i)について、筆者は次のような考察を行った。まず、本稿のはじめに述べたように、ここでは文頭に主語以外の構成素が立った場合のみを問題にしているので、この言語変化はCVS語順からCSV語順への変化の問題に還元できよう。また、松本(1993)⁸⁾によれば、次のように述べられている。

「通時現象とされる言語変化は、実は、「共時的なゆれ」という形で言語の共時態の中に常に内蔵されている。これは最近の社会言語学的研究によってますます明らかとなった事実であるが、…」

この指摘を考え合わせれば、この現象は次のような説明が可能であるように思われる。すなわち、この拙論の結果は13世紀の資料3点から得られたものである。そして、その資料が表す言語状況には厳密には幅があるはずであるが、その幅を一応捨象して、得られた結果を共時的なものに見なすならば、その共時態の中におけるCVS語順、語順がゆれているもの、CSV語順という従属節の各グループは、状況補語の節である文頭の従属節をCとすれば、古フランス語におけるCVS語順からCSV語順への変化の受け入れが早かったか遅かったかの違いの反映と見ることができるのではなかろうか。言い換えれば、13

世紀のこの時点において、〔表2〕のCVS語順のグループは新しい語順に乗り換える前でこれからのもの、語順がゆれているグループは新しい語順に乗り掛かったもののまだ乗り換え終えていないもの、CSV語順のグループは既に早々と新しい語順に乗り換え終えたものということになる。基本的にこのように捉えれば、これら3つのグループの違いが生じた理由を無理なく理解できると筆者は考える。

そこで次に、新しい語順への乗り換えの早い遅いという時期の差はどういう原因によって生じたのかが問題となるが、これについては、一般的に文頭のCと後続のVとの結びつきの緊密さの違い⁹⁾という要因によるものとして説明できるのではないかと考えられる。CとVとの結びつきが強ければ強いほど、Cが文頭に出た場合それに引かれてVがすぐあとに続こうとする働きも強く、その結果CSV語順への移行が遅くなるのではないかという考え方である。この考え方に基づき、それまでに集まっていたデータだけからではあるが、具体的に拙論(1995)の中で示したのが次の2項目の仮説である。

(1) CVS語順を保持しようとする働きは、(a)状況補語よりも目的補語の方が強く、また(b)節よりも句のほうが、句より語の方が強い。

(2) CVS語順を保持しようとする働きは、状況補語同士なら、Vとの結びつきが意味的に緊密な方が強い。

(1)、(2)はいずれも突き詰めれば文頭のCとVとの意味関係に収束することのように思われるが、(1)は統語上明示的であり、(2)は統語上非明示的である点が異なる。〔表2〕に戻って、(1)から指摘できることは、従属節は状況補語の節であるから、動詞との結びつきが最もゆるく、その意味で目的補語と比べたり状況補語の語や句と比べて、CVS語順からCSV語順への変化に最も容易に、最も早く対応できる条件の下にあったのではかろうかという点である。先に述べたように、動詞第2位が原則であったとされる時期に既にCSV語順のものがかかなり多く見られるのも、こうした理由によると考えればうまく説明がつくであろう。一方、(2)は非明示的なことなので客観的に証明するのが容易ではない。〔表2〕のCVS語順のグループの従属節とCSV語順のグループの従属節を比べてみると、主節のVとの意味関係について、CVS語順のグループの方は結びつきが強く、CSV語順のグループの方は独立性が高いように筆者には感じられるが、この違いを客観的に計ることのできる手段を見つける必要がある。現在のところ、(2)についてはこれ以上論を進めることはできないので、今後の課題にしたい。

2. 本稿の調査と分析

これまでの経過を踏まえて本稿では、前稿と同じ資料を用い、直接目的補語、間接目的補語の節と句と語、状況補語の句と語について、それらが文頭に単独で立っている文をすべて抜き出し、その語順がどうなっているかを調べた。その結果、直接および間接目的補語の節については例が見当たらなかった。¹⁰⁾ また、直接および間接目的補語では、CV

S語順以外のものは見られず、しかも語についての例は僅かであったので、本稿では、句と語の区別は状況補語についてのみ行うことにした。その際、同一の語彙素と思われるものが資料の表記の仕方により句と語に分かれざるを得ないものについては、一応資料の表記の方を尊重した。また、書記法が2種類以上存在するものについては1つにまとめた。以下にそれぞれの表と用例を示すことにする。

(表3) 直接目的補語

	CVS語順				計	CVS~CSV語順	CSV語順
	M.A.	Q.G.	S.E.				
autre chose	1				1		
autre deu			1		1		
autre escu		1			1		
autre tel	2	1			3		
ce chastel	1				1		
ce meismes			1		1		
cel chevalier		1			1		
cele aventure		1			1		
cele chose	1				1		
cele virginité		1			1		
ces deus cox	1				1		
cest don					1		
ceste aventure		1			1		
ceste avision		1			1		
ceste costume		1			1		
ceste parole	5	3			8		
ceste promesse	1				1		
ceste requeste		1			1		
ceste temptation			1		1		
cestui cop	1				1		
grant damage	1				1		
grant estor et							
grant meslee		1			1		
grant franchise		1			1		
honor		1			1		
(i)ce	20	23	2		45		
icele table		1			1		
(i)ceste chose	6				6		
icestui message	1				1		
itel vertu		1			1		
(i)tex/itieux/itiex/ tieux/tiex paroles	9	1			10		
l'escu	2				2		
la derrienne	1				1		
la darreaïne parole de vostre songe		1			1		
la premiere	1				1		
Lancelot	1				1		
le respit de quarante jorz	1				1		
ma volenté	1				1		
meint autre miracle	1				1		
poor		1			1		
sa mort		1			1		
sa parole		1			1		
sa priere	1				1		
saluz		1			1		
son cors		1			1		
son non	1				1		
tel loier	1				1		
tel parole	1				1		
toi		2			2		

to(u)t ce	5	1	6				
tout ce plet	1		1				
tout ice	1		1				
toutes ces choses		2	2				
toutes ces vertuz	1		1				
toz barbarins			1	1			
vilanie	1		1				
vos	1		1				
計	56(100%)			計	0(0%)	計	0(0%)
総計	56(100%)						

CVS語順 (語) / 例. *Bt ce ne doit len pas tenir a merveille;* (Q.G.220/16)
 " (句) / 例. *Tex paroles avoit commenciees messire Gawains a dire;* (M.A.101/1)

(表4) 間接目的補語

CVS語順				CVS~CSV語順				CSV語順			
	M.A.	Q.G.	S.E.	計							
a celui	1			1							
a celz de la cité	1			1							
a cestui	1			1							
a Guerrehet et a Agravain	1			1							
a Hestor		1		1							
a l'un et a l'autre	1			1							
a lui		1	2	2							
a madame la reine	1			1							
a touz	1			1							
a touz les chevaliers de la Table Reonde	1			1							
a vos	3			3							
leur	1			1							
vos	1			1							
計	13(100%)				計	0(0%)			計	0(0%)	
総計	13(100%)										

CVS語順 (語) / 例. ; et vos fera honnage toz mes parentez, fors seulement les deus rois. (M.A.147/68)
 (句) / 例. ; a lui faz je sacrefices e oroisons e proieres; (S.E.35/8)

(表5) 状況補語 (語)

CVS語順				CVS~CSV語順								CSV語順				
	M.A.	Q.G.	S.E.	計	M.A.	Q.G.	S.E.	計					M.A.	Q.G.	S.E.	計
					CVS	CSV	CVS	CSV	CVS	CSV	CVS	CSV				
adonc/adonques/adont	5		1	6	autre-								certes	43	35	78
ainçois/ainz/ançois/ einz	6	10	1	17	ment	13	9	1	22	1			meusement	1		1
alors	1	1		2	donc		6	1	6	1			neporec		11	11
après	3	7	1	11	dont	5	1	8	7				nequedant	1		1
assez	5	3		8	e(t)	17	多	16	多	1	多	34	voire	3		3
atant	42	1		43	ja	6	2	6	6	1		13	veraiement	1		1
ausi(nt)/aussi	17	17	1	35	mainte-											
autresi(n)/altreci	7	2		9	nant	3	1	20			23	1				
bien	4	3		7	nepor-											
çaienz/ceanz/ceenz	1	2		3	quant	1	10		13		1	23				
devant	1	1		2	onques	1	4		7		1	11				
einsi(nt)/ensi/issi	48	59	1	108	tant	17		9	1	1	27	1				
encor(e)	19	11	1	31	tantost			1			1	1	1			
hui				1												
(i)ci	11	7		18												
il(l)ec/il(l)uec	4	3		7												
la	1	5		6												
laienz/leanz	1	1		2												

longuement		3		3						
lors	97	100	13	210						
mar	1			1						
meintefoiz	1			1						
merveilleusement	1			1						
mielz	1	1		2						
molt/mou(l)t	15	5	2	22						
non	3	1		4						
or(e)	58	41	5	104						
orendroit		1		1						
puis	2	3	1	6						
plus	2	2		4						
si	88	76	2	166						
toutevoies	9	4		13						
trop	6	1		7						
voirement	5	1		6						
計	34	(68 %)			計	10	(20 %)	計	6	(12 %)
總計						50	(100 %)			

CVS語順 /例 *Lors descendi Placidas de la montaigne; (S.E.6/1)*

CVS~CSV語順 /例 *Meintenant se part Lancelos de leanz entre lui et son compaignon et deus escuiers que li chevaliers avoit amenez avec lui. (M.A.16/63)*

例 *et maintenant messire Gauvains se part de court(M.A.93/27)*

CSV語順 /例 *Bt neporec il le droit volentiers. (Q.G.66/1)*

(表6) 状況補語(句)

CVS語順					CVS~CSV語順					CSV語順				
	M.A.	Q.G.	S.E.	計						M.A.	Q.G.	S.E.	計	
a aventure			1	1						a non Dieu		3	3	
a biauté			1	1						a son tens	1		1	
a bon droit			1	1						au mien escient	1		1	
a ce	2	1		3						au departir		1	1	
a cel cop	1			1						au revenir	1		1	
a cel encontre	1			1						d'autre part	2		2	
a cel encontre		1		1						de par Dieu		1	1	
a cel tens		1		1						dedenz vespres	1		1	
a cele chose	2			2						Dieu merci et				
a cele parole	1			1						la vostre	1		1	
a cele table		1		1						en fin	1		1	
a celi termine	1			1						en nom/non D(i)eu	5	4	9	
a celui tens		1		1						en nule maniere	1		1	
a ces criz et a										par aventure		1	1	
ces noises	1			1						par Dieu	2	4	6	
a ces paroles	4			4						par foi	12	16	28	
a cest conseil	3			3						par mon chief	3	2	5	
a cest coup	1			1						par sainte Crois		1	1	
a cest fet			1	1						por Dieu	1		1	
a ceste aventure		1		1						por nule riens	1		1	
a ceste chose	1	1		2						salve vostre grace		1	1	
a ceste demande		1		1						sanz faille	8	6	14	
a ceste espee trere														
fors de cest perron		1		1										
a ceste parole	2	1		3										
a ceste Queste		1		1										
a ceus de ceanz	1			1										
a chief de piece	1			1										
a (h)heure/hore de														
none	2	1		3										
a hore de midi		1		1										
a force		1		1										
a issir		1		1										
a la bataille	1			1										
a l'endemain	3	1		4										
a l'escouter		1		1										
a poines	1			1										

a tant		16	16
a tout le moins	1		1
après ce	1	2	4
après cele table		2	2
après ceste avision		1	1
après ceste chose	1		1
après ceste parole	3	2	5
après ceste vertu		1	1
après cestui cop	1		1
après la mort le roi			
Artu	1		1
après le serpent		1	1
après li	1		1
après lui	1	1	2
après vespres		1	1
au cheoir	1		1
au darain/darreain		3	3
au jor de la Pente-			
couste		1	1
au matin	2	1	3
au meins	1		1
au parcheoir	3		3
au partir	1		1
au quart	1		1
au quinziesme jor			
devant mai	1		1
au soir	1		1
au tierz jor	1		1
avec aux		1	1
avec ce	1	1	2
avec li	2		2
avec lui	1		1
avec vos		1	1
cel jor	1		1
cele a senestre		1	1
celui jor	11	4	15
celui jor meïsmes	1	1	2
celui soir	1		1
ci endroit	4		4
ci pres		1	1
contre humilité		1	1
contre le fiz de ta			
mere		1	1
contre virginité et			
chastéé		1	1
d' ausi haut lignage		1	1
d' itant		1	1
d' une part		1	1
de ce	4	8	13
de cel Arbre		2	2
de cel lac		1	1
de cel sanc		1	1
de cel serpent		1	1
de cele	1	1	2
de cele part		1	1
de celui		3	3
de celui cop	1		1
de celui lac		1	1
de celui sanc		1	1
de ces deus virges		1	1
de ces neuf		1	1
de ces trois choses		1	1
de ces trois colors		1	1
de cest songe		1	1
de ceste aventure		2	2
de ceste chose	2	5	7
de ceste damoisele		1	1
de ceste fere	1		1
de ceste novele		1	1
de ceste parole	1		1

de chevalerie	1	1	2
de chiens e d'oiseaus		1	1
de combatre a li	1		1
de compaignie	1		1
de fruit	1		1
de la tombe	1		1
de la veue des eulz	1		1
de meismes		1	1
de moi	1		1
de mon nom	1		1
de mort	1		1
de nul plus preudome			
de vos	1		1
de pierre	1		1
de plus preudome ne de			
meillor chevalier	1		1
de sa mort	1		1
de sivre chevalerie			
et de fere d'armes	1		1
de tant	1	2	3
de tel aage ne de tel			
semblant	1		1
de tel maniere et de			
tel force	1		1
de tel viande	1		1
de toi	1		1
de tout ce	1		1
de toutes parz	1		1
de toz cax de la			
Table Reonde	1		1
de trop douter	1		1
de vos	1		1
de vos deus	1		1
de vos meismes	1		1
de vostre venue	1		1
dedenz ce terme	1		1
dedenz cel lit	1		1
dedenz celui terme	1		1
del pooir de cors	1		1
del remanant	1		1
del resuscitement	1		1
del revenir	1		1
del test	1		1
del tornoiement	1		1
des icele eure	1		1
des lors		2	2
des lors en avant	1		1
des or mes	1		1
des pechiez mortieus	1		1
devant ax	1		1
devant ce	1		1
devant cel Arbre	1		1
devant l'autel	1		1
devant l'uis	1		1
devant la nuit	1		1
devant le Saint Vessel	1		1
dou cors	1		1
einsi garniz de toutes			
bontés et de toutes			
vertuz terriennes	1		1
el milieu des deus			1
tombe	1		1
el siege Boort	1		1
el siege Hestor	1		1
el siege Caheriet	1		1
en ce	3	1	4
en ce pensé	1		1
en ce chastel	1		1
en ce lit		1	1
en cel besier	1		1

en cel bois	2		2
en cel hermitage	1		1
en cel penser		2	2
en cel siege		1	1
en cele	2		2
en cele chambre	2		2
en cele eure	2		2
en cele nef		1	1
en ceste partie	4		4
en ceste plaingne	1		1
en ceste voie		1	1
en dormant	1		1
en grant effroi		1	1
en la cité de Gaumes	1		1
en la derreniere	1		1
en la fin	1		1
en la Queste del Saint Graal	1		1
en nul autre leu	1		1
en peril		1	1
en plus demorer	1		1
en poor avoir	1		1
en si pou de terme	1		1
en tel duel et en tel ire		1	1
en tel duel et en tel martire	1		1
en toz ces set	1		1
en toz les cinc anz	1		1
en toz leus	1		1
en vos	1		1
en vostre terre	1		1
entre mes ennemis	1		1
es circonstances dou firmament		1	1
es deus autres après	1		1
grant piece		2	2
(i)cele nuit	16	10	26
icelui jor meismes	1		1
jusques la	1		1
l'endemain	2	1	5
la nuit	1		1
le jor meismes	1		1
le soir	1		1
neis mes enfanz		1	1
o ces trois	1		1
ou mileu dou lit	1		1
ou perron	1		1
par Abel	1		1
par bataille	1		1
par Caym	1		1
par ce	4		8
par cele a destre	1		1
par cele a senestre	1		1
par cele entencion	1		1
par celui meffet	1		1
par ces deus choses	1		1
par ceste aventure	1		1
par ceste espee	1		1
par ceste parole	1	1	2
par deça	1		1
par delés cele fontaine	1		1
par eve	1		1
par feu	1		1
par force	1		1
par la bone vie de vos	1		1
par la confession	1		1
par la proesce des compaignons de la			

Table Reonde	1		1
par le Chastel as			
Puceles	1		1
par le conseil Josephe	1		1
par le frain	1		1
par le non del			
chastel	1		1
par le pré	1		1
par le rastelier	1		1
par le roi /mant	1		1
par le signe del			
baptisme		1	1
par les set chevaliers	1		1
par les toriaux	1		1
par li	1		1
par lui	1		1
par moi	1		1
par mort	1		1
par tel couvent	1		1
par toi	1		1
par vostre defaute	1		1
por amour de cest			
coup	1		1
por autre chose	1		1
po(u)r ce	23	60	3 86
por ce cop	1		1
por cele parole	2		2
po(u)r ceste chose	2	2	4
por icele venjance	1		1
por la pes porchacier	1		1
por l' amor de lui	1		1
por le pleur	1		1
por lor grant			
desloiauté	1		1
por lui	1		1
por moi	1		1
por neant	1		1
por plus preudome			
sauver	1		1
por si pou de chose	1		1
por tex jeus e por			
autres		1	1
pour la bataille	1		1
pres de lui	1		1
quatre ans	1		1
quatre jorz	1		1
quatre jorz après			
ceste requeste	1		1
sanz ce	1		1
sanz grant merveille	1		1
sanz grant senefiance	1		1
sanz la mort de maint			
preudome	1		1
sanz lui	1		1
solement en volenté	1		1
sor ceste pierre	1		1
sor toutes choses	1		1
tout ausi	1		1
to(u)t celui jor	1	1	2
tout einsi(nc)	3		3
tout en ceste maniere	1		1
(tout) en tel maniere	6	8	14
to(u)t le jour	2	4	6
tout premierement	1		1
toute cele semeinne			
et l' autre après	1		1
toute jor	1		1
toute la nuit	1	1	2
toutes voies	1	3	1 5
to(u)z jorz	2	1	3

toz dis		1	1		
trois jorz	1		1		
trois jorz après		1	1		
trois jorz devant					
l'assemblee	1		1		
trop longuement		1	1		
un an et trois jorz		1	1		
un jor	2		2		
un poi après eure de none	1		1		
計	291(93 %)			計	0(0 %)
計				計	21(7 %)
総計	312(100 %)				

CVS語順/例 *Après ce repaire Eustaces a son ostel.* (S.E.11/1)

CSV語順/例 *, car en fin tuit cil de ceste cort me sont failli au grant besoing.* (M.A.80/12)

各表の3つの語順グループの一番下には、〔表2〕の場合と同様、それぞれのグループの欄の中にリストアップされた各用例の異なり実数とその全体に占める百分率が示してある。補語の種別ごとに用例総数が異なるので、一律に比較しにくい面は残るが、〔表2〕を含めて、百分率によって各表の結果を比べてみることにする。〔表2〕から〔表6〕までの結果を見比べるためにまとめたものが〔表7〕である。

〔表7〕

: 文頭を示す

#C				後続語順			計	資料	備考
				-V-S	-V-S ~ -S-V	-S-V			
補語要素	目的補語	直接	語	56(100 %)	0(0 %)	0(0 %)	56(100 %)	M.A., Q.G., S.E.	cf. (表3)
			句						
		間接	語	13(100 %)	0(0 %)	0(0 %)	13(100 %)		cf. (表4)
			句						
	状況補語	節	語	34(68 %)	10(20 %)	6(12 %)	50(100 %)		cf. (表5)
			句	291(93 %)	0(0 %)	21(7 %)	312(100 %)		cf. (表6)
節			9(33 %)	11(41 %)	7(26 %)	27(100 %)	cf. (表2)		

まず、〔表3〕と〔表4〕による直接目的補語と間接目的補語については、いずれもすべての例で、すなわち100 % CVS語順が保持されている。

次に、〔表5〕による状況補語の語のところでは、CVS語順を取るものが他の語順に比べ遙かに多く68%と全体の3分の2を越えているものの、CSV語順を取るものが12%、また語順がゆれているものが20%と3つそれぞれのグループが見られる。

更に、〔表6〕による状況補語の句については、CVS語順を取るものが圧倒的に多く全体の93%を占め、CSV語順を取るものが僅かながら7 %ほど見られる。状況補語の場

合は句と語を分けたことによって、語順がゆれているグループが有るか無いかという差になって現れている。

そこで、この表を見ながら、1. 2. 2. で示した前稿の仮説について検証してみたい。(1)について見てみると、直接および間接目的補語では、いずれもCSV語順を取るものは0%であるのに、状況補語では語の場合に12%、句の場合に7%、更に語順がゆれているものも語の場合に20%あるということで、(1a)にあるように、CVS語順を保持しようとする働きは、状況補語よりも直接・間接目的補語の方が強いと言えそうである。また(1b)については、状況補語の節では、CVS語順を取るものが33%、語順がゆれているものが41%、CSV語順を取るものが26%ということであるから、状況補語の句や語と比べれば、CVS語順を保持しようとする働きは、節より句・語の方が強いことが分かる。しかし、直接・間接目的補語については節の欄が空欄であるし、句と語との関係については(1b)通りではないので、厳密には、本稿のデータに関する限り(1b)を少し修正する方がよかろう。すなわち、(1)全体では、CVS語順を保持しようとする働きは、状況補語よりも直接・間接目的補語の方が強く、また状況補語同士なら節よりも句・語の方が強いというのが正確である。

次に、(2)については、前述のように、統語上非明示的なことであるので、本稿の分析結果だけからすぐには何も言えないが、1つだけ指摘しておきたいのは、後続の語順がゆれている文頭の状況補語の句および語の中に、その文が肯定文か否定文かという違いがその語順のゆれに関与していそうなものが存在するということである。これについては、肯定／否定という意味的区別がCとVとの結びつきの緊密さの違いと関わっているのかどうか、関わっているとすればどのように関わっているのかということを含め、別の機会に譲りたい。

3. 結論

以上の考察により、CVS語順からCSV語順への移行の早い遅いを左右すると考えられるCとVとの結びつきの緊密さの違いについて、CVS語順を保持しようとする働きは、(a)状況補語よりも直接・間接目的補語の方が強く、また(b)状況補語同士なら節よりも句・語の方が強いという点は、限られた資料からではあるが一応実証できたのではないかと考える。今後、更に資料を増やして精度を高くしてゆくことと、この傾向が13世紀以降どのように推移してゆくのかは追跡する必要があるだろう。

付記：本稿は、日本ロマンス語学会第33回大会（1995年5月20日、青山学院大学）において行った研究発表に加筆・修正を施したものである。席上、大変に有益な御質問・御助言をして下さった諸先生方に深く感謝致します。

注

- 1) Wartburg(1971), p. 129-130. 参考文献を参照のこと。
- 2) 参考文献を参照のこと。
- 3) 参考文献を参照のこと。なお、この稿には若干の間違いがあるので、ここでお詫びして訂正しておきたい。

頁	行	誤	正
35	4	M.A. 28/28-29	S.E. 28/28-29
37	13	; tant comme	; et tant comme
"	"	M.A. 124/1-2	M.A. 124/2-3

- 4) Moignet(1979) 及びMénard(1988). いずれについても参考文献を参照のこと。
- 5) 語順を言語学的に扱う場合、散文と韻文の資料があれば、散文を第一義的に対象とすべきことは当然のことであるが、従来の古フランス語の語順研究においては、文体など特別な事由なしに韻文を資料としたり、散文と韻文を区別せずに資料としていることが少なくない。古フランス語においても、語順を扱う場合の資料としては、先ず第一に散文を調べるべきであることは、Wartburg(1971), p. 103 の指摘からも明らかである。
- 6) この数値は、拙論(1995), p. 40に示した表に上がっている従属節の数とは異なっている。前稿では、用例数の合計が4例未満のものについては表から省いたためである。本稿では、この後の表の中に用例数が1例のものも含めてあるので、条件を揃えるために、この〔表2〕でも前稿で省いたものを復活させることにした。
- 7) 拙論(1995), pp. 41-42.
- 8) 松本(1993), p. 9. 参考文献を参照のこと。
- 9) この用語自体は、Zwanenburg(1978)に関する討議録の中に見られる les degrés différents d'étroitesse du lien entre complément antéposé et verbe という表現を訳して用いたものであるが、その内容などについては、この討議録にも論文にも、何も具体的な説明は見られない。この論文については、参考文献を参照のこと。
- 10) 直接目的補語の節に関しては、名詞節が文頭にきた例は見当たらなかったが、句なし語(先行詞)+形容詞節(関係節)の例が7例あった。いずれもCVS語順であったが、これは状況補語の場合も同様で、〔表2〕に示したように、状況補語の場合には、この句・語+形容詞節は状況補語の節には含めていない。従って、直接目的補語についても、条件を揃えるためにこの7例は節の例には含めない。間接目的補語については、名詞節の例はありようがないかもしれないが、句・語+形容詞節の例も見当たらなかった。

参考文献

- Battye, A. & Roberts, I. (1995): *Clause Structure and Language Change*, Oxford University Press.
- Bonnard, H. & Régnier, C. (1989): *Petite grammaire de l'ancien français*, Magnard.
- Buridant, C. (1987): L'ancien français à la lumière de la typologie des langues: les résidus de l'ordre O V en ancien français et leur effacement en moyen français, *Romania*, 108/1(429), pp.20-65.
- Burling, R. (1992): *Patterns of Language: Structure, Variation, Change*, Academic Press, Inc., pp.311-315.
- Cerquilini, B. (1981): *La parole médiévale: discours, syntaxe, texte*, Les Editions de Minuit.
- Combettes, B. (1989): Ordre des mots, types de textes, diachronie: topicalisation de la subordonnée en moyen français, *Verbum*, 12/4, pp.339-346.
- Foulet, L. (1980): *Petite syntaxe de l'ancien français*, 3^e éd. revue, Champion.
- Marchello-Nizia, C. (1985): *Dire le vrai: l'adverbe "si" en français médiéval*, Droz.
- Ménard, Ph. (1988): *Syntaxe de l'ancien français*, 3^e éd. revue et augmentée, Bière.
- Moignet, G. (1979): *Grammaire de l'ancien français*, 2^e éd. Klincksieck.
- Ruelle, P. (1966): L'ordre complément direct-sujet-verbe dans la proposition énonciative indépendante, *Mélanges de grammaire française offerts à M. MAURICE GREVISSE*, Duculot, pp.307-322.
- Wartburg, W. von (1971): *Evolution et structure de la langue française*, 2^e éd., Francke.
- Zwanenburg, W. (1978): L'ordre des mots en français médiéval, *Etudes de syntaxe du moyen français*, Klincksieck, pp.153-171.
- 今田良信 (1993): 「古フランス語における文頭の補語要素と語順 — CVS 語順対 CSV 語順を基準として —」『ニダバ』第22号, 西日本言語学会, pp.80-92.
- (1995): 「古フランス語における文頭に従属節を有する複文の語順について」『吉川守先生御退官記念言語学論文集』, 溪水社, pp.31-45.
- 松本克己 (1993): 「言語現象における中心と周辺」『国文学 解釈と鑑賞』740(58-1), 至文堂, pp.6-13.